調 査 速 報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2008年 12月 15日

北海道立函館水産試験場 (0138-57-5998)

○2008年12月3日～10日に，調査船金星丸を用いて道西日本海海域(檜山海域)のスケトウダラ資源調査を実施したので，結果をお知らせします。

調査結果速報は，下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/hakodate/

- スケトウダラ魚群は漁場周辺を中心に分布し，沖合域では少なかった。
- 魚群の分布水深はおよそ 140～380mで，濃群は 280m以浅にみられた(夜間)。
- 計量魚探による漁場周辺の魚群反応量は，前年同期を下回った。
- 乙部沖，上ノ国沖の水温は前年より高く，江差沖では前年並～高めだった。

● スケトウダラ魚群の分布

・水平分布(図1,2)

調査海域全体では，魚群の分布は熊石から上ノ国にかけてのスケトウダラ延縄漁場周辺に多くみられました(図1)。他に，奥尻島の東側(熊石の北西側)にもややまとまった魚群の分布がみられました。

スケトウダラ延縄漁場域内では，爾志海区(熊石沖～乙部沖)と上ノ国沖で多く，江差沖では少なくなっていました(図2)。

以上の他に，奥尻堆*(奥尻島の南側)でも調査を行いましたが，魚群の反応はほとんど見られませんでした。

＊奥尻堆の魚探結果は荒天時に行った参考値であるため図1に載せていません。

・鉛直分布(図3)

魚群の分布は，①(42°02.5N線)では水深140～380m，②(41°57.5N線)では水深150～380m，③(41°52.5N線)では水深150～380m ，④(41°47.5N線)では水深160～380mに見られました。また，濃群(分布の中心)は280mより浅い水深帯に見られました。

● スケトウダラ延縄漁場周辺の魚群反応量(図2,4)

檜山沿岸域(スケトウダラ延縄漁場周辺)の魚群反応量は2002年以降では最も少なく，まとまった魚群反応が見られた前年同期を4割以上下回りました。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖，江差沖，上ノ国沖で水温の観測を行いました。漁期前(10月)に調査した時は，3海域とも前年(2007年)より水温が低くなっていましたが，今回は乙部沖，上ノ国沖では前年より高く，江差沖は前年並～高めとなっていました。

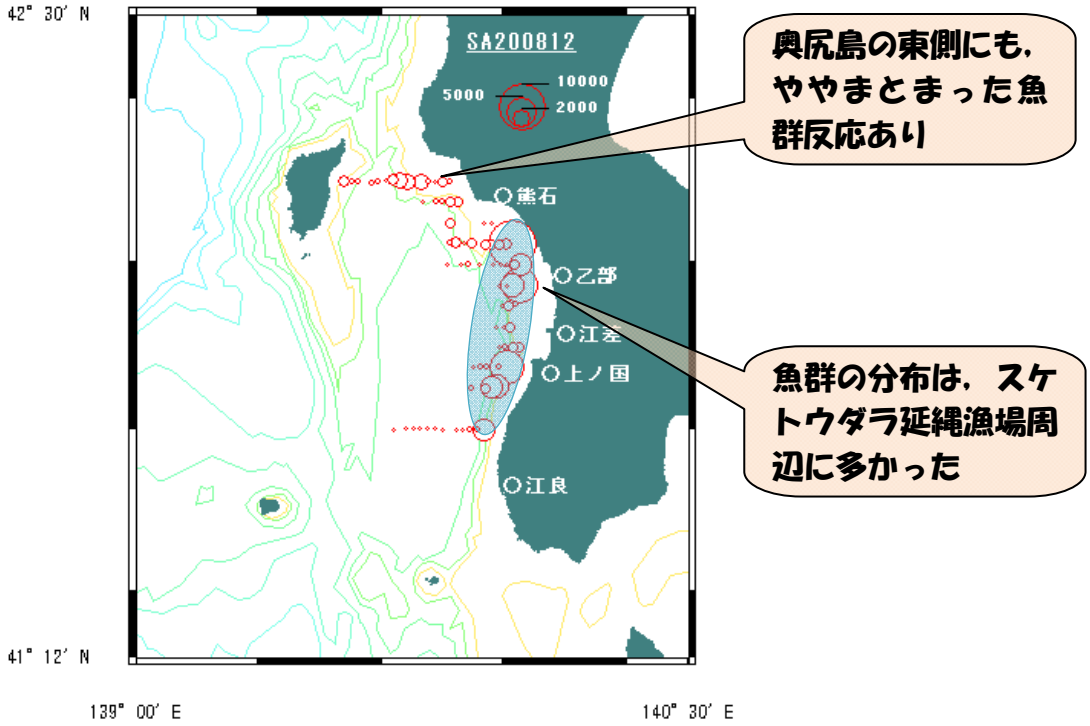

図１　調査海域全体の魚群の水平分布（2008 年 12 月）

○の大きさが魚群反応量（S_A）を示す

：すけとうだら延縄漁場域

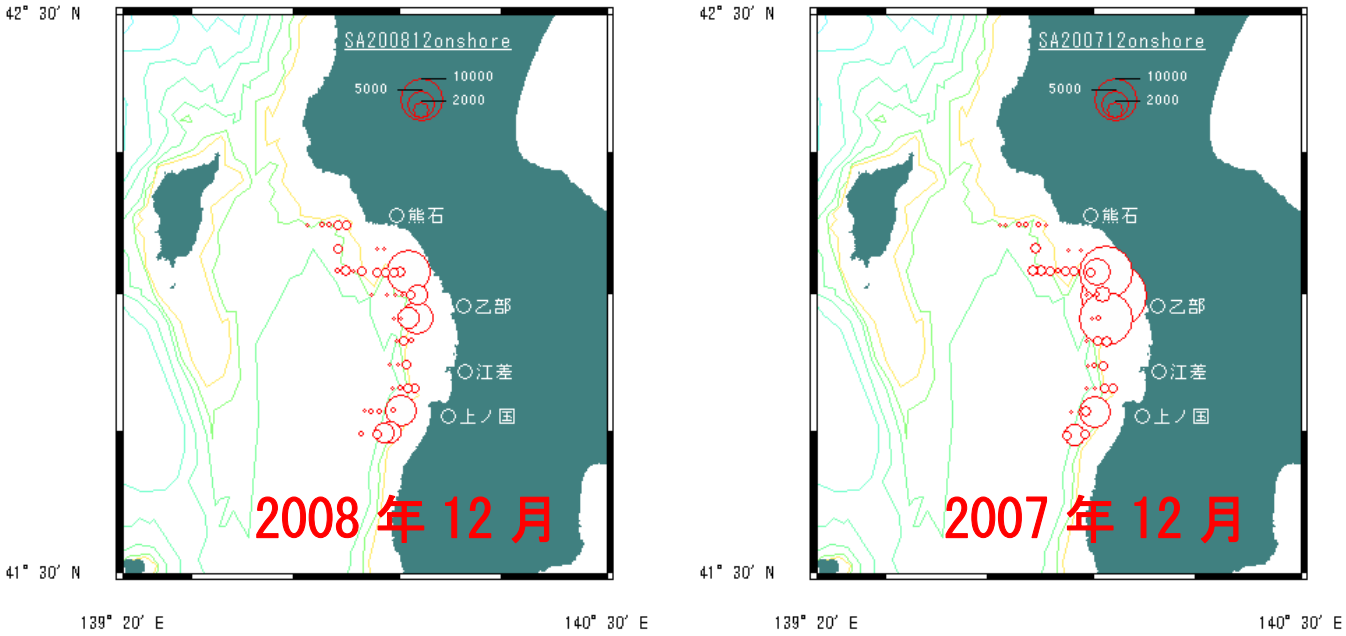

図２　すけとうだら延縄漁場周辺の魚群の水平分布（左：2008 年，右：2007 年）

○の大きさが魚群反応量（S_A）を示す

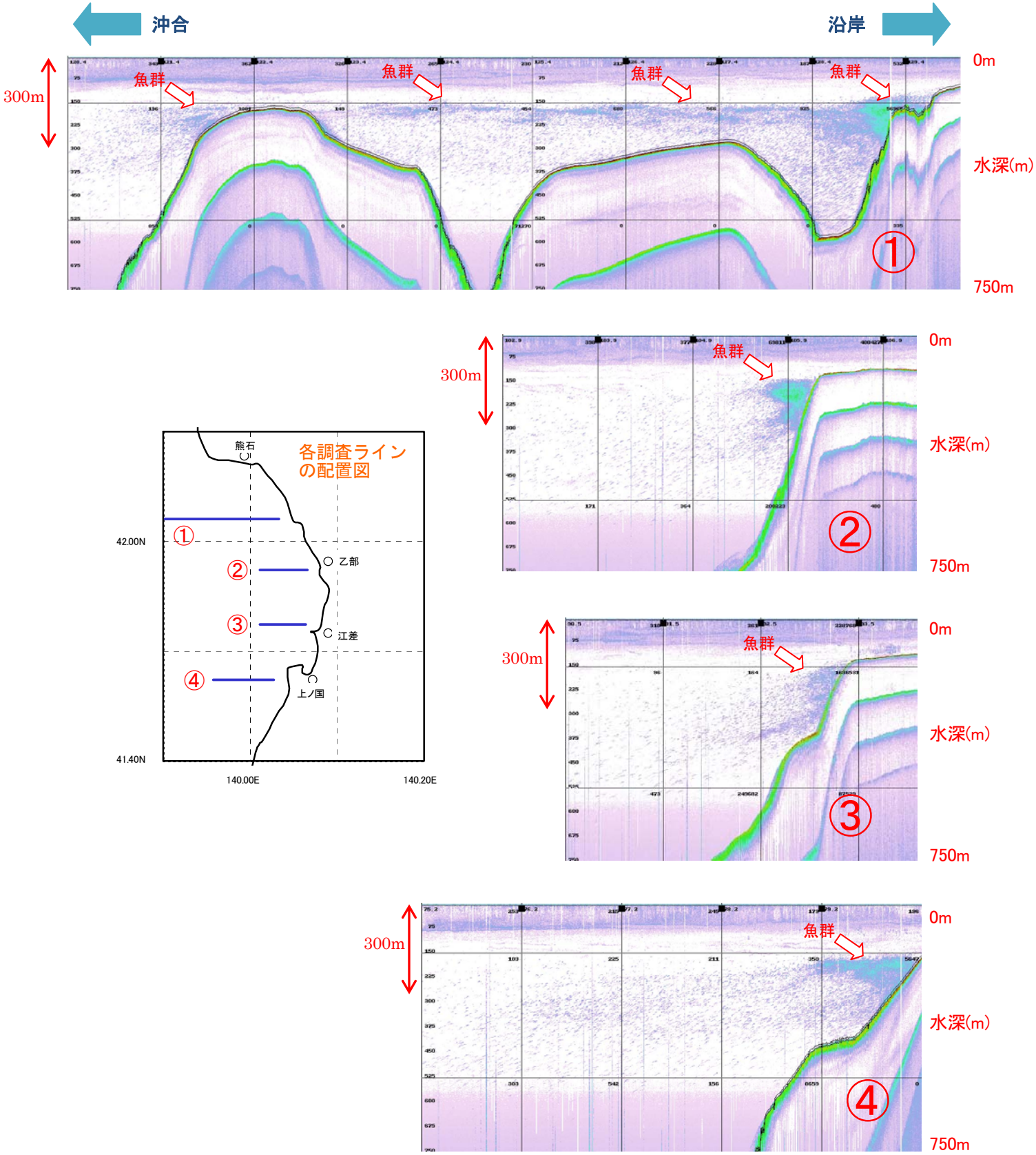

図３　各調査ラインにおける魚群の鉛直分布（夜間に調査を実施）

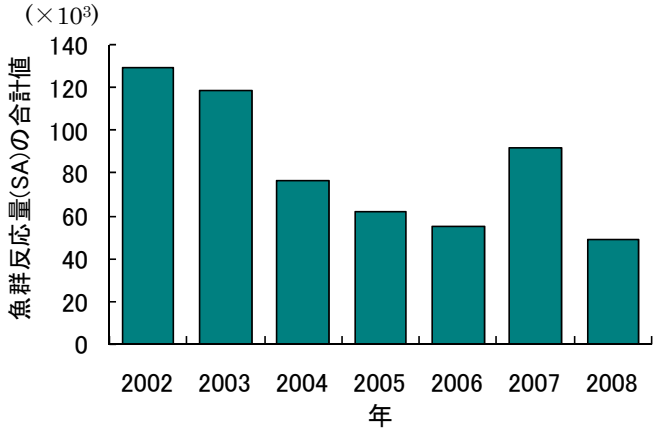

図４　漁場周辺（図２）の魚群反応量の年変化

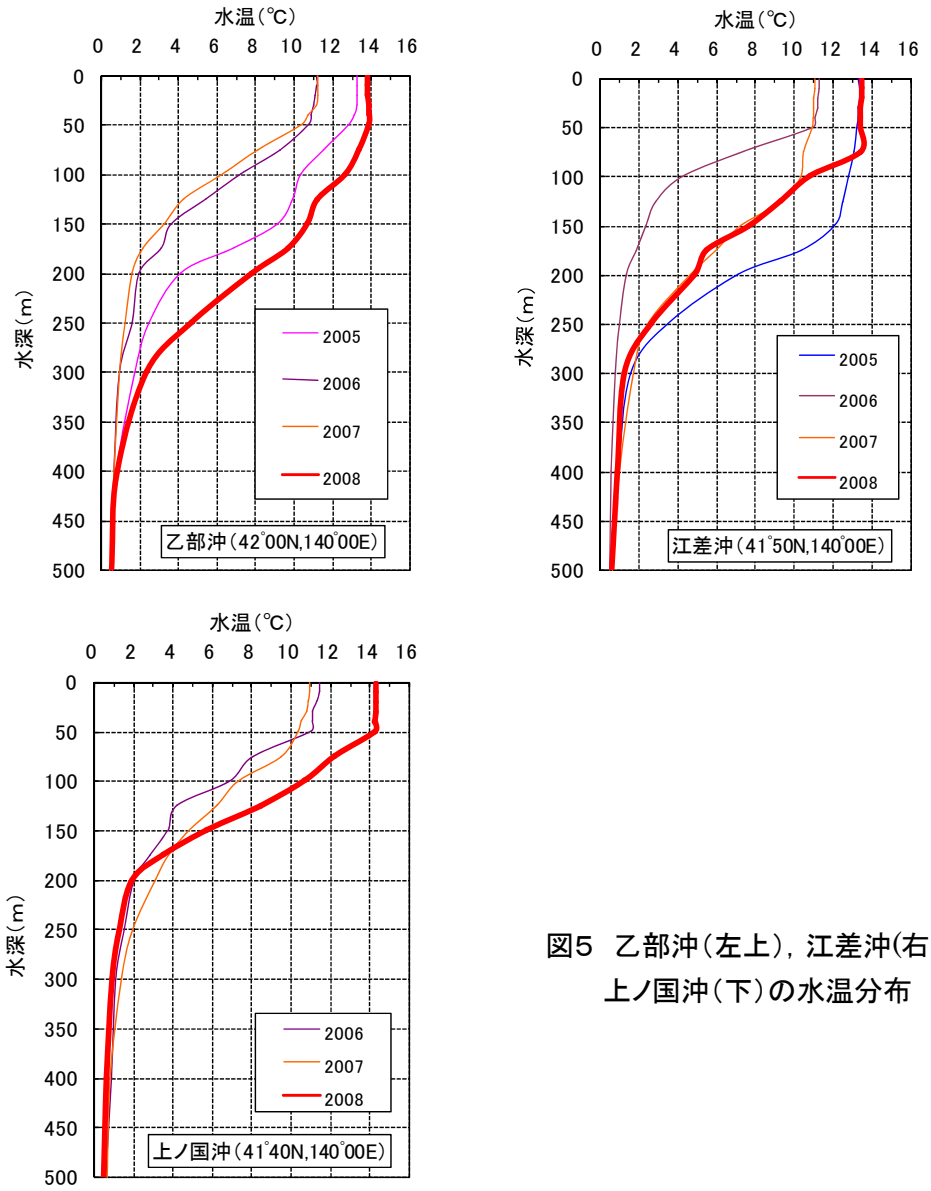

図5　乙部沖(左上)，江差沖(右上)，
上ノ国沖(下)の水温分布